

知事記者会見の概要

日 時：令和4年6月24日（金） 10:00～10:45

場 所：502会議室

出席記者：9名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、代表・フリー質問に知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

代表質問

- (1) 参議院議員選挙への対応について
- (2) 宮城県川崎町における風力発電事業の計画について

フリー質問

- (1) 代表質問2に関連して
- (2) 新型コロナウイルス感染症への対応について
- (3) 参議院議員選挙における投票率について
- (4) 代表質問1に関連して
- (5) 個人情報データの管理について
- (6) 米沢トンネル（仮称）整備に係る今後の取組みについて
- (7) F D Aの山形一名古屋（小牧）便の期間増便について

< 幹事社：YBC・産経・毎日 >

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。

まずは、「やまがた紅王」のことをごさいます。これが、今年最後のやまがた紅王の生育状況でございます。(補足：生育状況を示した写真のフリップを提示する。) 500円玉よりもちょっと大きいぐらいに成長して、大変大きくなりました。そして真っ赤に色づいているところです。

やまがた紅王ですが、寒河江市にあります山形県園芸農業研究所で、20年以上の歳月をかけて開発されたものです。大切に育てられ、ようやくプレデビューを迎えることができました。感無量であります。大変うれしく思っております。市場販売も開始されたところでございます。

昨日、県内のマスコミ向けに文翔館でプレスイベントを実施しました。7月1日には、首都圏のマスコミ向けに歌舞伎座を会場にイベントを開催して、大田市場でのトップセールスも実施するというようにしております。

やまがた紅王は県産さくらんぼの期待の大型新人であります。皆様には、来年の本格デビューを楽しみにお待ちしておりますし、ブランドとなるように応援をしていただきたいと、一緒になってPRをしていただきたいというふうに思っているところでございます。

それから「やまがた夏旅キャンペーン」の延長について申し上げます。宿泊・日帰り旅行が割引になる北海道・東北各県・新潟県を対象とした「やまがた夏旅キャンペーン」につきまして、(実施期間を)6月30日までとしておりましたが、7月14日まで延長することといたしました。

なお、政府から発表のありました全国を対象とした観光需要喚起策につきましては、政府において6月中の感染状況を見極めた上で、今後、具体的な実施時期や内容が示されると聞いておりますので、それを受けて、詳細を決定次第お知らせいたします。

本格的なさくらんぼシーズンとなりましたので、「新しい旅のエチケット」をお守りいただきながら、さくらんぼ狩りなど初夏の山形をお楽しみいただきたいと思います。

それから、新型コロナについて申し上げます。本県では、大型連休後、新規感染者数が増加をしておりましたが、5月下旬から減少に転じまして、6月2日以降は2桁の日が続いております。重症患者はおりませんで、病床使用率も10%前後で推移しております。直ちに医療提供体制がひっ迫する状況にはないものと捉えております。

今後も感染防止対策と社会経済活動を両立していくためには、少しでも新規感染者数を減らし、医療体制がひっ迫するリスクを下げるのが重要だと考えております。県民の皆様には引き続き熱中症に注意をされながら状況に応じた、場面に応じた不織布マスクの正し

い着用やゼロ密、換気の励行、こまめな手洗いなど、基本的な感染防止対策の徹底をお願いしたいと思います。

それから、県内の新規感染者数は全国的に見れば少ないほうであります。今後、経済活動の本格再開や夏休みの時期を迎え、感染再拡大の懸念もあるところであります。

感染拡大防止を図るためには、陽性者の早期発見が大変重要となりますので、昨日 23 日に新型コロナ危機対策本部の本部員会議を书面開催いたしまして、無料 PCR 等検査の実施期間を 6 月 30 日までとしておりましたが、7 月 31 日まで延長することを決定いたしました。少しでも感染に不安のある方は、積極的に無料の PCR 等検査をご利用いただきますようお願いいたします。

ワクチン接種であります。これは感染防止・重症化防止対策の要であります。それで県では、ワクチン接種率の更なる向上を図るため、バスで県内各地を巡回し、車内でワクチン接種を行う「新型コロナワクチン巡回接種事業」を実施いたします。

巡回期間は、7 月 1 日から 8 月 28 日まで、原則、金・土・日曜日と祝日の計 24 日間を予定しております。対象となる方は、3 回目及び 4 回目のワクチン接種を希望する方で、使用するワクチンは武田／モデルナ社製のワクチンとなります。バスが巡回する場所は、一部の期日前投票所やショッピングモールなど、県内の 17 の市・町、24 か所を予定しております。

希望される皆様にはこの機会を活用して、接種を受けていただきますようお願いいたします。私からは以上です。

☆代表質問

記者

おはようございます、産経新聞の柏崎と申します。よろしくお願いたします。

参院選が公示となりましたけれども、吉村知事は県議会閉会後の 21 日ですね、私ども報道陣に対しまして、舟山さんを支援されるというふうに表明されましたけれども、その時まだ具体的にどうするのかということには決まっていなかったというお話でしたが、その後、どういった支援をされるのかということには決まりましたでしょうか。教えていただければと思います。

知事

はい、私の各種選挙への関わり方につきましては、これまで一貫して恩返しということを経験しながら、その都度慎重に検討したうえで対応してまいりました。

先日の取材でも申し上げた通りであります。この度の参議院選挙には、これまでの知事選挙でご支援をいただいた方、具体的には舟山さんが立候補されておりますので、恩返しを

しなければというふうに考えているところでございます。

一方で県行政のトップとして、新型コロナ対策や地域経済再生、また原油・原材料価格高騰への対応など、様々な課題に関して中央政府と連携して取り組んでいかなければならないということも承知をしております。それから米沢トンネル（仮称）ですけれども、その早期事業化に向けては、遠藤（利明）衆議院議員と連携した取組みなども行っているところであります。

この度の参議院議員選挙において、具体的にはどうするかというようなことにつきましては、今申し上げたようなことを考えながら、現在熟慮中でございます。

記者

熟慮中ということなのですが、陣営からは応援の依頼とかそういうのは来てないんでしょうか。

知事

何回も来たのではないかと思います。

記者

わかりました。

もう一つ質問がありまして、宮城県と山形県にちょっと関係する話なんですけど、大阪の関西電力さんが蔵王山麓に風力発電を設置する計画がございます。それでその際に、主に宮城県川崎町ということなんですけど、宮城県知事はこの計画に対しましてね、「関西電力なんだから関西で補うのが正しいことなんじゃないか。」というような違和感というか、そういう感想を述べられたんですけど、一方で山形市の蔵王温泉のほうでも説明があった際に、一部反対が地元のほうからあったというふうに伺っております。改めて、景観につきまして、知事の所感というか、今後の対応も含めましてもし何かあればお尋ねしたいんですが。

知事

はい、わかりました。宮城県川崎町における風力発電事業の計画につきましては、宮城県内で様々な動きがあることは報道などで承知をしているところです。先日、環境影響評価の手続きに関する事項を調査・審議する「山形県環境影響評価審査会」を6月16日に開催し、現在、審査会からの答申を待っているところでありますので、今後、環境影響評価法に定める手続きに従って、答申の内容や山形市長の意見などもお聞きしてそういったことを踏まえて、事業者きちんと意見を申し上げたいと考えているところです。

宮城県知事の話出ましたけれども、最初ちょっと内々にお話を聞いたときにですね、私は本当に（宮城県知事と）同じような印象をちょっと持ったところです。

記者

確か3年ほど前に、東京の建設会社が羽黒山っていうか出羽三山のほうにですね、風力発電の計画がございました。それで地元の人が、地元で記者会見をされて「反対だ」と表明されたんですが、確かその翌日、知事も所感を求められて「私も反対です」ということをおっしゃってたと思うんですが、まだ蔵王山のほうについては環境影響評価の答申を待ちたいっていうお立場ってことでしょうか。

知事

そうですね。きちんとですね、環境影響評価審査会の答申を待っているところでありますので、それをお聞きして、また、蔵王は山形市でありますので、住民の意思などもたぶんお聞きするであろう山形市長さんのご意見もお聞きした上で、両方踏まえた上できちんと意見を申し上げていきたいというふうに思っています。

記者

いつ頃になる見通しなんでしょうか。

知事

いつ頃までっていうのはちょっとまだ聞いておりませんが、環境エネルギー部おりますか。

環境エネルギー部次長

はい、環境エネルギー部でございます。今後ですね、答申をお受けし、また山形市長からのご意見をお聞きし、事業者に対しましては、7月下旬頃を目途に意見を述べてまいりたいと考えております。

記者

わかりました。どうもありがとうございました。

☆フリー質問

記者

さくらんぼテレビの白田です。

今の風力発電施設についてなんですけども、知事から村井知事と同じ印象を持ったという言葉がありました。知事の言葉で、具体的にどういう印象を持ったのか教えてください。

知事

はい。事業者がですね、関西電力ということで、「えっ、どうして関西電力なの。」という

ふうに、本当に素朴にちょっととっさに印象を持ちました。ですから、宮城県知事が「関西でおやりになればよろしいのではないか」というふうにおっしゃったというように、やっぱり同じようなことをお考えになっているなというふうに思ったところであります。

記者

ありがとうございます。

記者

時事通信の村上と申します。

ワクチン接種の件で、バスで巡回してワクチン接種をするということなんですけれども、今の時点で県内で把握されているところで何%くらい接種率があるかということとですね。あと実施の形態ですね。バスの車内でやるのかとか、バスで巡回してそこで何か簡易的な接種会場を設営するのかとかいうこととですね、あとバスは1台ということでもよろしかったかどうか、ちょっとお伺いさせてください。

知事

はい。バスの具体的な台数とか、内容についてはちょっと後程、担当から答えてもらいたいと思います。

ワクチン接種率を申し上げますと、3回目接種率でよろしいですか。

記者

はい。

知事

はい。3回目接種率は、県内の実績として6月22日時点で、69.7%になっております。これは全国2位で東北でも2位となっております。年代別に申し上げますと、12～19歳までが44.9%、20～29歳までが55.5%、30～39歳までが57.7%、40～49歳までが69.2%、50～59歳が80.3%、60～69歳までが86.4%、70～79歳までが95.7%、80～89歳までが90.9%、90歳以上というのが91.4%となっております。

記者

ありがとうございます。このワクチン接種率について知事としてどのように受け止められてるか、お聞かせください。

知事

そうですね、全国2位ということでもありますので、本当に市町村の皆さんが熱心に取り

組んでくださっているなど、あと県民の皆さんもワクチン接種にしっかり取り組んでくださっているなどという印象を受けております。2回目接種率のほうは、もう全年代で、5～11歳までは41%ですけど、12歳以上の全年代で平均86.3%までいっております。ですから、3回目接種率、今のところ、全国でもやはりトップグループということでもありますけれども、50歳以上がもう8割以上となっておりますので、やはりそれ以下の若い方々にこれからしっかり打っていただければ、感染防止対策として益々有効になるものというふうに捉えております。

記者

ありがとうございました。

記者

河北新報の原口です。

先ほどの蔵王の風力発電の件だったんですが、宮城県知事と感想は同じだという話をされたってということで、そうなってくるとお互い、両県での情報交換とか、意見とか、すり合わせとか、反対運動とかも今起こってますけれども、そういったことについて両県としてどのように関わっていきたいかっていうのはありますか。

知事

いえ、まずは、山形県の環境影響評価審査会の答申というものを待っておりますし、それから山形市長の意見をお聞きしたいというふうに思っております。しっかりと県内の、地元のご意見をお聞きしながら、考えていきたいというふうに思っています。今のところ、宮城県との連携というようなところまでは、まだ考えていない状況です。

記者

共同通信、阪口です。

すいません、今の風力発電の件なんですけれども、関西電力さんということで私も「なぜこっちなのか」というのは多分、初めて聞いた方は皆さんそういうふうに思われるんじゃないかなと思うんですけれども、山形にいれば、あそこは一大観光地で景観もかなり優れていることがわかると思うんですけれども、その中で関西電力さんがここに計画を立てられるということ自体についてはどのように思われるか、伺えますか。

知事

そうですね、山形県はやはり観光立県というようなことをずっと掲げてきました。中でもこの蔵王は、最も山形県の観光地を代表する所であります。観光協会の会長さんから、お釜からの景観が変わるといって憂慮している、造っていただきたくないという考えだ

というようなことを取材でコメントされたと聞いているところです。国定公園というような所でもありますし、私は、再生可能エネルギーを進めるというのは賛成なんですけれども、ただやはり、色々な歴史でありましたり、地域の事情でありましたり、そういったことをしっかりと配慮をしながらですね、進めていくということも大事だというふうに思っておりますので、観光地として非常に県も力を入れて、山形市さんも力を入れている所がありますので、やはりそういう所はあまり選んでいただきたくないというのが正直なところですね。

記者

その一方で知事より言及ありました、再生可能エネルギーというのは喫緊の課題になっているかなと思うんですけれども、この両立の難しさ、例えば風力が強い所であれば独特の景観があったりとかですね、なかなか両立が難しい面があるのかなというのは、事業者側もなかなか難しい判断が迫られるのかなと思います。そこのバランスの取り方の難しさみたいなのは、知事どのようにお考えになっていますか。

知事

そうですね。本県は、市町村の意見をちゃんと一度お聞きをして、出羽三山の件がありましてから、もうちょっとしっかりしなければというような思いで、市町村からこういうところは除外してほしいというようなところまで聞き取りをして、そういった情報を把握しているということになっていると思いますので、市町村のお考えというようなこともしっかり考慮しながらですね、再生可能エネルギーを進めていきたい、今回この度は風力ということでもありますけども、やはりそこは大事なところかなというふうに思っています。ただ、山形県は自然が豊かでありますので、風が吹く所はたくさんありますので、まだまだ開発の余地はあるのではないかなというふうにも思っております。ただ、道路を作るとか、そういったところの工事をするまでの、道路みたいなそういうのがなかなか大変なところはあるかなというふうには思っています。

記者

ありがとうございます。あと、参院選に関してなんですけれども、山形県は直近の国政選挙で、投票率がずっと上位を占めていると思います。今回の投票率に対して、知事どのようにお考えになりますか。

知事

投票率はですね、全国1位となっているというところはやはり、本当に本県の謹厳実直、真面目な県民性を反映しているなというふうに思っておりますし、またお一人お一人がご自分の意見を、1票を投じるということで、お考えを示すというようなことも非常に大事な

ことだというふうに思っています。ですから、投票率はやはりしっかりとね、更に上げていくということが一番よろしいのではないかなというふうに思っています。

それで、選挙管理委員会ですら、どうしているかということをお聞きしてみました。昨年の衆議院議員選挙後に、選挙管理委員会が県内の高校3年生を対象にアンケートを実施したということであり、その結果なんです、投票に行った高校生の約9割が「家族と投票に行った」と答えているということであり、ですから、家族ぐるみで投票に行くというのが、大きなポイントになると考えられています。

こうしたことから、県の選挙管理委員会では、今回の参議院議員選挙においても「若者の投票参加」と、「子連れ投票・家族ぐるみ投票」の呼びかけに力を入れて取り組んでいくということでございます。具体的には、高等学校の校内放送などを通じた高校生による高校生への投票参加の呼び掛け、そしてまた新たに家族連れが集まる店舗への卓上三角柱POPの掲出などの取組みを県内の学校や市町村等と協力しながら進めているということでもあります。

また、市町村の選挙管理委員会の協力も得ながら、各投票所における新型コロナウイルス感染防止対策の徹底にも注力し、コロナ禍でも有権者の皆さんに安心して投票所に足を運んでいただくことができるよう取り組んでいるとのことでもあります。

有権者の皆さんにはぜひ投票所に足を運んでいただき、自分の未来を決める大事な一票をしっかりと行使していただきたいというふうに思っております。

記者

最後に1点、この前の21日のぶら下がりの時にでもですね、コメント、ちょっと言及があったと思うんですけども、知事選の時に共産党さんからもご支援をいただいていたのではないかなと記憶しておりますけれども、そちらには今のところ支持を表明されていないというところには、何か差のようなものはあつたりするのでしょうか。

知事

はい、そうですね。これまでのところですね、共産党の皆さんには本当に支援をしております。ですが、勝手連的に支援をいただいているということで感謝を申し上げておりますけれども、私自身が動くというようなことまでは、ちょっと考えてないというところでもあります。

おそらく、でも支持して下さったということに対しては、メッセージなどは考えていけないのかなというふうに思っております。

記者

NHKの桐山と申します。よろしくお願ひします。

すいません、急な話で恐縮なんです、昨日、兵庫県の尼崎市で全市民の個人情報の入っ

たUSBが紛失されるということがありました。報道の内容でしか私も承知していないんですけども、その委託した会社の方が飲酒をしてしまって、路上で寝てしまって紛失したということであって、なかなかその汎用性があるかという、教訓が共有されるものかという論点がありますが、県のほうでもおそらく県民のそのいろいろなデータの、給付金関係のデータとか持っているかと思うんですが、その情報セキュリティ関係のですね、その対策というか、見直すとか、何かこういうことを指示したとかですね、そういうことは今後考えられるんでしょうか。よろしくお願いします。

知事

はい、そうですね。その尼崎市の件では私もちょっとびっくりをしまして、何しろ全市民の氏名とか住所も入っていたというようなこともお聞きしました。やっぱりあってはならないことでありますし、官庁、お役所自身、またその業者の方もですね、やはり個人情報の流出などということに対しては、万全の備えをしていただかないと本当に大変なことになるというふうに思っています。

やはりセキュリティというのは非常に重要なことでありますので、そこは万全にしていきたいというふうに思っています。

担当のほうにはですね、まだ聞いておりませんが、大丈夫なのかというようなことを確認していきたい、そしていろいろなその技術が日進月歩しておりますし、普段のセキュリティをどのように万全にしていくかということについてですね、常にしっかり注力してもらいたいということを申し上げたいと思っています。

記者

わかりました。ありがとうございます。

記者

すいません、山形新聞の田中です。

2点ありまして、まず1点目は先ほど言及があった山形新幹線の米沢トンネル（仮称）です。先の6月定例会でも質疑等が様々ありまして、今年度は地権者調査ということで、公図であったりとかですね、現地確認とか、今年3月から始まっているということがあります。その先、これはいわゆる前段の調査であって、今後のトンネル整備に関しては、例えば具体的な、来年度から予定されているボーリング調査とかですね、そういった本調査というものが様々、おそらく来年度から入っていくんだろうと。

聞きたいことはですね、今回、事前調査に関しては、債務負担行為で2,200万円の限度額、予算で2,000万円ぐらいの予算を計上してやっていますけども、来年度以降ですね、知事としてはどのように、トンネルの整備に向けてですね、県としての関わりですね、本来であれば予算も聞きたいところではあるんですけども、県としてまずどのように来年度以降は関

わっていかれるおつもりなのかを教えてくださいたいと思います。

知事

はい。米沢トンネル（仮称）でありますけれども、本当に山形県の将来の発展ということについて大変大きなカギを握っている、本当に希望のトンネルだと、期待のトンネルだというふうに私は思っております。

それですね、まずは共同調査ということで今進めているところでありますけれども、その次がどういうことになっていくのか、そしてその負担、財務負担と言いますか、そういったこともどういうふうになっていくのかということも、おそらく今担当のほうで検討を重ねているのではないかと思います。

具体的なその予算については、議会のこともありますし、私もまだ具体的なことを聞いていないというのが実情でありますので、今お答えするわけにはいかないんですけれども、ただ、政府への更なる働きかけとか、あとJRさんへの働きかけといったこともですね、遠藤衆議院議員のお力添えもお願いしておりますので、どういうふうにしていけるのか、しっかりとタッグを組んで取り組んで、一步でも前に進めていきたいという思いでいっぱいです。

記者

ありがとうございます。米沢トンネル（仮称）の整備、それに当たってですね、例えば山形県内の様々な波及効果ということですね、例えばコワーキングスペースの整備であるとか、観光振興であるとかですね、様々掲げられておられます。当然これは内陸地方、今の新庄までの沿線の話だけではなくてですね、北前ガニであるとかですね、将来の波及効果ということも見通しておられると思います。

そうした波及効果をどのようにこれから引き出していくのか、トンネル整備に向けて、知事として庄内地方も含めてですね、沿線ではない、今どのようにお考えになってこれから事業を進めて、政策というかですね、県勢発展の方針を描いておられるのかを教えてくださいたいと思います。

知事

そうですね。これは本当に大切なことで、またエリアが全県内ということを考えていますので、やはり県内の地域の様々な名産品でありましたり、またその事情といったことも踏まえて、できる限りコワーキングスペースみたいなものはもっともっと増やしていくというようなことが大切ではないかと思っております。

これがすなわち、デジタル田園国家都市構想ということにつながっていくと思っておりますし、地域経済の活性化、また、本県が案外全国的にも起業・創業が少ない県でありますので、そこは元気を出して起業・創業に力を入れていくと、支援をしていくというようなことも考えながらですね、やはりその沿線ということだけではなくて、全県的に地域活性化につ

ながらのような取組みを進めていきたいというふうに思っております。

記者

ありがとうございます。2点と言いましたが、ちょっとこれに補足するという形で、すいません、もう1点。今度は空路になります。FDA（株式会社フジドリームエアラインズ）がですね、8月、確か3週間という期間限定ではありますけども、小牧、名古屋便を1日3往復ということで拡充します。

これ、山形空港にとってもすごく路線の拡充というのはいいことであってですね、今回3週間ということになりますけども、この東京だけではない例えば地方間の移動、こういったものも今後のポストコロナ、ウィズコロナで観光振興では重要なのかなと個人的に思っています。

今回3週間という限定ではありますけども、庄内空港も含めて、こういった地域間航路のようなものの、チャーターもいいんですけども、地域間航路のようなものの充実みたいなものというのはどのように捉えていらっしゃるのでしょうか。

知事

はい。まずはですね、そのFDAが8月でしたかね、確か3週間限定ではありますけれども、3便にさせていただけるというようなことは大変喜ばしく思っているところであります。何としてでもですね、その時の搭乗率をしっかりと上げなければいけないねというようなことを内部で話し合っているところです。

名古屋便ということですので、中京圏とのその往来というものをですね。活発化していくということになるかと思っています。できればそのあとも続けてほしいと言いますか、そのあとのこともできればつながるような搭乗率になるといいなと思っておりますけれども、担当としっかり一緒に考えて取り組んでいきたいというふうに思っています。

今記者さんがおっしゃったその地方空港と地方空港のつながりでありますけども、その地方対地方の路線というのも、私はこれから本当に大事なものだというふうに思っています。アフターコロナを考えますと、特にですね、インバウンドはやはり私は日本が生き残っていく上で非常に重要なところだと思っています。

その観光、「日本に行きたい」というのが世界で一番になったわけですね。観光競争力が日本は世界一になったわけであります。本当にいろんなところから日本に来ていただけるようにしていきたいというふうに思っていますし、そのためにもですね、地方空港はやはりしっかり地方空港として生き残っていかなければいけない。きちんと残して、維持・継続をしていかなければいけないと思っていますので、政府にもそのことは申し上げていきたいと思っておりますし、県としても市町村と連携をして、航空会社さんなりいろんなところにやはり提案・要望なども行っていければというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。当初とおそらく今回の補正でも空港の利用促進の活性化協議会の補正なんかも入っていたと思うので、旅行商品造成の支援であるとか、そういったものが活用されるんだろうと私も見ていきたいと思います。

最後にもう1点、コロナのことで、知事、先ほど6月の中旬、2日から2桁になって、減少局面に入っているというお話がありました。

1月5日からとされている今回の県内の第6波、長くですね、もう半年近くになりますけども、その出口がそろそろ見えてきているのか、知事としてはどのように今の現状のコロナの感染状況の推移というのをご覧になっていますか。

知事

そうですね。1月から第6波ということで、オミクロンですね。私の記憶では確か1月24日に3桁になって、その日にまん延防止等重点措置の申請を行った、それからずっと5月まで3桁が続いていたということで、本当に息の長いオミクロン株だなというふうに思っています。

ただ、幸いなことに重症者は割合少ないというところがあります。ただですね、今記者さんがおっしゃったように、6月2日から2桁にはなったんですけども、更に1桁になってくれないかなと実は思っておりますが、なかなか1桁には行かないところがあります。50人以下になったなと思えば、80人台になったりですね、ちょっとなかなか収束までにも時間がもうしばらくかかるのかなとも思いながら、早く1桁になってほしい、それがほとんどの収束になるのかなと思ってますけれども、そのためにもワクチン接種をしっかりと、多くの方に受けて、接種していただいているということで、バスの巡回接種なども企画をしたところがあります。

県としても市町村と一緒にあってワクチン接種を進めながら、しっかりと県全体で収束に向かっていきたいというふうに思っております。

出口ですか。出口は近いような気もするんですけども、はっきり出口になるのか、バツとぼやけていって、何かゴールインみたいなものになっていくのかは、ちょっと私にも図りかねるところであります。

やはり政府の動向を見据え、また医療専門家のお話もお聞きしながら、当面はですね、感染拡大防止と地域経済の回復の両立をしっかりと図っていくための取組みに全力で取り組んでいきたいというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。これが最後の質問になります。

今知事がおっしゃられたように、今年度、今年の3月以降ですね、これまでの行動制限が緩和されてですね、(感染防止対策と社会経済活動の) 両立を目指す動きは山形県内でも、

そして国内でも広がっております。

そうした中でですね、その両立を目指す、日常を取り戻していくという、知事も位置付けられている今年度、その感染の収束、終わるほうではなくておそらく束なっていく収束のほうになるかと思うんですけども、その収束を見据えてですね、取り戻す流れの中で、何か知事としてですね、次の一手を考えておられるものはありますか。

例えば今回の当初予算の中にはですね、チャーターであるとかですね、農作物の海外の市場の調査、これはカナダが新規で入っていたり、おそらくアメリカとかですね、コロラド35周年なんていうのも8月末、9月頭あたりにあるかと思えますけども、何か知事としてその日常を取り戻す流れの中で、その収束の先に見える次の一手、お考えになっているものがあれば教えていただければと思います。

知事

はい。そうですね、次の一手ですか。目の前のというのではやはり、小規模の事業者の皆さんが、例えば職場で感染者が発生した際に、事業を継続したいと思った場合にですね、毎日きちんと検査をしながら事業は継続できるようなその支援と言いますか、検査キットの支援というようなことを考えているわけですね。あとは生活支援、産業支援というようなことは6月の補正予算で可決をされたところであります。

将来を見据えてというようなことになりますけれども、今のところはやはり記者さんがおっしゃったところはしっかりやっていく、そして観光と輸出というのはやはり人口減少の中でも力を入れていかなければいけないところだと思っていますので、観光と輸出という関連の分野をですね、しっかり取り組んでいきたいと思っています。今からもそれはオンラインというのが非常にその海外との結び付きまでできる、県内でも、また県外でも、海外との、そこはもう場所を選ばない、距離を選ばないで交流できるわけでありますので、オンラインをですね、やっぱりフル活用していくということが大事なんだというふうに思っています。

オンラインをしっかりと活用しつつ、また、リアルでもコロナ以前の活動をできる限り取り戻していくというようなことをやはり考えていきたいというふうに思っています。

具体的な地名というようなところまではですね、後ほどというようなことにさせていただければというふうに思っています。

記者

ありがとうございました。おそらくオンラインでずっとつながっていると知事がこれまでもおっしゃっている台湾であるとか、そういったところもこれから交流が活発、さらにリアルで活発になっていくのかなというふうに思います。すいません、質問は以上です。ありがとうございました。